

年間第13主日
聖ペトロ使徒座への献金

第一朗読 列王記下4・8-11、14-16a
第二朗読 ローマ6・3-4、8-11
福音朗読 マタイ10・37-42

2026.6.28

カトリック高円寺教会 9:30
主任司祭 高木健司神父

イエス様がわたしたちと出会おうとされていると、わたしたちキリスト信者は信じてますけども、イエス様がわたしたちと出会おうとされる、あるいはイエス様がわたしたちに受け取って欲しいと望んでいらっしゃるその恵みとは何か。

簡単に言えば、一人ひとりが父である神様から頂いた命、また神様から頂いた色々な他の人との繋がりをよりよく生きる、そういうふうに表現していいのではないかと
思うんです。

ですから、信仰生活というのは、イエス様、神様に忠誠心を示すためにこの世において苦しいことを引き受ける、そして死んだ後にそのご褒美がいただけるというようなものではなく、すでに今、この生きている命をもっとよりよく本当の意味で恵みとして受け取り、感謝して生きることができるようということ、神様のわたしたちへの願いなんだということになると思うんです。

そういう点で、今日のイエス様の福音の言葉——今日の福音はどれ一つ取っても大切な言葉ばかりなんですけど、少しだけその一部分を黙想するとするならば——、「わたしより父や母を愛する者は、わたしにふさわしくない。わたしよりも息子や娘を愛する者も、わたしにふさわしくない」(マタイ10・37)という言葉は、決して——父や母、息子や娘っていうのは自分にとって大切な人間関係の例として表現されていると思いますけども——その大切な人間関係と断絶して教団の中だけで生きるっていうか、そういうことを呼びかけているのではないわけです。

しかし、イエス様との繋がりの中で、もう一度その関係を見つめ直す、あるいは受け取り直すということは大切なんだと思うんです。神様との関係抜きにして周りの大切な人との関係となれば、父や母、娘や息子にしたとしても、その関係を失わないということが最も大切なことになる。失わないために、極端なことを言えば、相手の言

いなりになるほかないんだということです。でも、イエス様との繋がり、イエス様を中心においても一度考え直すならば、相手との関係の中で大切なことは何か、あるいはどのような関係の持ち方がより自分にとっても相手にとっても本当の幸せに通じることなのかということ、改めて見直すことができる。教会でよく使われる言葉で言えば、神様を中心にもう一度自分の周りを秩序付け直すっていうことができる。その呼びかけなんじゃないかなと思うんです。そして、わたしたちは、場合によっては相手が望んでいることそのままに振る舞わないことを判断することができるようになる。そういう意味で、本当の自由の中で良い繋がりを作っていくことができるっていう呼びかけではないかなと思うんです。

ところで、これは使徒たちに言われ、そしてわたしたちにも呼びかけられてる呼びかけですけども、今日の福音の中でもう一つ注目したいのが、「預言者を預言者として受け入れる人は、預言者と同じ報いを受け、正しい者を正しい者として受け入れる人は正しい者と同じ報いを受ける」(マタイ 10・41)って言葉ですけど、これ、ちょっと落とし穴というか注意しなければならないのは、「あ、預言者だ。あの人は正しい人だ」と認識するという意味だけではないわけです。預言者を預言者として受け入れるというのは、その預言者の言葉に従って自分の生き方を変える、宗教的に言えば回心するということも含めてでなければ、預言者を預言者として受け入れるということにはならない。

ともすると、わたしたちは、「あ、あの人、素晴らしい」——例えばマザー・テレサでも、聖人でも——あの聖人は素晴らしいって認識する、あるいは逆に、「ああいうことは良くないな」と、悪いっていうことを認識するというだけで、自分があたかも正しいことのように、あるいは正しい人の業に参加しているかのような気になってしまう。見ただけで、あるいはそれを良いと受け入れただけで。でも、自分自身は何も行動や生き方は変わっていないのに、正しいものを正しいと認識することができる、あるいは悪いことを悪いと思うっていうことだけで、何か良い者になったかのような気になってしまうというのは、落とし穴なわけです。

そこに自分なりに「ではどうしたらいいのか」という問いがあり、そして少しずつでも自分の生き方が変わっていくということになれば、本当の意味で預言者を預言者として受け入れ、正しい人を正しい人として受け入れるということにはならないし、その報いとは、死んだ後に良い場所があるとか、あるいは思い通りになるのではなく

て、そういうことを通してその一番源にいらっしゃるイエス様とより深く出会って
けるっていうのが、その報いです。

ところで、今日は、ミサの冒頭にも申し上げましたけども、聖ペトロ使徒座への献
金の日に当たっています。聖ペトロ使徒座というのはバチカンのことです。教皇様が
世界のいろんな教会や人々のために働かれる、その働きを支えるために全ての教会が、
まずはその献金だけ、一致しましょうということですけども、教皇様は、わたした
ちのリーダー、指導者ですから、教皇様を大切にすることの大切にする仕方は、
教皇様がおっしゃっていることそして色々な形で出されるメッセージに耳を傾け、そ
してそれを自分なりに「ではそのメッセージに応えるにはどうしたらいいのか」を考
え、実行していこうとするということ以外にはないと言ってさえ、過言ではないと思
うんです。

教皇様はアイドルではないので、「あ、どこで見ました」、「見かけた」、あるいは「ど
こで触った」、そういうことじゃないんですよ。大切にする仕方っていうのは、その
メッセージに耳を傾け、自分なりにそれをどうしたらいいのか受け取っていく以外に
ないという意味で、今日はもちろん献金という形での繋がりが呼びかけられています
けども、それ以上に、教皇様のおっしゃること——この教会でもなるべくメッセージ
が出されたときには内容を紹介したいと思ってますけども——それぞれ色々な形で
触れようとするということが大切なのではないかなと思います。

それはもちろん教皇様だけじゃなくて、究極的にはイエス様もそうです。イエス様
も、ただ崇め^{たてまつ}奉^{まつ}っているだけでは、本当の意味でイエス様が望んでいる関係ではな
いと言わなければならない。今日わたしたちがその御言葉を通してイエス様と近づき、
そしてイエス様を一人ひとりの中にお迎えすることを通して、では自分なりに生き方
がどう変わっていくのか——それさえもわたしたちの力というよりは恵みのうちに
導かれていくというそのプロセスですけども——、小さなことでも、でもそういう思
いでわたしたちの中にイエス様をお迎えして共に生きる、その思いを新たにしながら、
一人ひとりの中に恵みをいただきたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>